

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法Ⅰ						
担当教員	作井 恵子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する基本的な知識と技能の習得。						
授業の概要	英語科教育に関する基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。講義と模擬授業等の演習を中心に進める。中学校・高等学校の教材を基に学習指導案を作成し、模擬授業を行い実践的な指導方法を体得する。						
到達目標	英語教育に関する知識、考え方、基本的な指導技法を身につけ、教育実習や学校現場での指導に生かすことができる。						
授業計画	第1回 英語科教育法の履修にあたって 第2回 英語科教員に求められる資質と能力 第3回 中学校学習指導要領のねらい 第4回 中学校学習指導要領（英語版） 第5回 高等学校学習指導要領のねらい 第6回 高等学校学習指導要領（英語版） 第7回 日本における英語教育の歴史 第8回 英語科教授法の分類と特徴 第9回 英語教育と国際理解教育 第10回 テストと評価 第11回 Can-doリストの作成と活用 第12回 中、高等学校における英語教育の実際 第13回 先輩に学ぶ（中学校教育実習生の模擬授業） 第14回 先輩に学ぶ（高等学校教育実習生の模擬授業） 第15回 前期のまとめと定期試験 第16回 授業観察の在り方、観点 第17回 授業展開の実際（中学校授業観察） 第18回 授業展開の実際（高等学校授業観察） 第19回 デジタル教科書の活用 第20回 中学校の教材研究 第21回 中学校の学習指導案の作成と検討 第22回 中学校の模擬授業 1 第23回 中学校の模擬授業 2 第24回 高等学校の教材研究 第25回 高等学校の学習指導案の作成と検討 第26回 高等学校の模擬授業 1 第27回 高等学校の模擬授業 2 第28回 模擬授業の点検 第29回 教育実習への心構えと準備 第30回 後期のまとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業と並行して、英語教員として必要な英語力（コミュニケーション能力、読解力はもとより、文法、語彙、語法）を身につける。						
授業方法	講義 中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、中学校・高等学校での授業参観を予定している（交通費は自己負担）。						
評価基準と評価方法	学習指導案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点（提出物、意欲、態度）30%						
教科書	「新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して」 JACET教育問題研究会編（三修社）						

参考書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂) ¥69+税 ISBN978-4-304-04161-7 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(開隆堂) ¥150+税 ISBN978-4-304-04164-8 文部科学省検定済教科書(中学校)「ONE WORLD English Course」 1, 2, 3 (教育出版) 同 『NEW CROWN: English Series』 1, 2, 3 (三省堂) 文部科学省検定済教科書(高等学校)「CROWN English Communication」 I, II (三省堂)
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法Ⅱ						
担当教員	作井 恵子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2言語習得理論に基づいた語学教育をテーマとし、これについて基本的知識を習得しながら英語科教育法の実践に発展させることを目標とする。これに加えて英語で授業を行える教授力を身につけることも目標とする。						
授業の概要	第2言語習得理論の観点から、英語の基本学習活動である4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）について学び、それを基礎とし、効果的な指導法を模索していけるよう、実践的な訓練を行う。						
到達目標	第2言語習得理論についての概要を理解し、説明することができる 英語の4技能について理解し、それを実践に応用できる 教室英語を駆使し英語で授業を行うことができる						
授業計画	1. 第2言語習得理論 概論 2. 文法とはなにか 3. 第2言語習得理論からみたリーディング 4. リーディング教授法と実践、および教室英語 5. 第2言語習得理論からみたリスニング 6. リスニング教授法と実践、および教室英語 7. 英語による英語の授業（DVD） 8. 第2言語習得理論からみたスピーキング 9. スピーキング教授法と実践、ゲームについて 10. 第2言語習得からみたライティング 11. ライティング教授法と実践、教室英語 12. 評価方法について 13. 語彙指導について 14. ティームティーチング、学級運営について 15. 復習と定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	第2言語習得理論については、教科書および参考書を熟読して授業に望むこと 模擬授業に関しては、指導案作成、教材研究、教材開発など授業外で準備し臨むこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 30% 模擬授業 30% 定期試験 40%						
教科書	大喜多喜夫 「英語教員のための授業活動とその分析」 （昭和堂）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法Ⅲ						
担当教員	作井 恵子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科指導に必要な知識を蓄積し、実践的な指導法を身につける						
授業の概要	英語科教育法Ⅰ、Ⅱで得た知識を総括し、教授法についての知識をさらに深める 模擬授業を通し実践的な教授力を身につける						
到達目標	英語科において必要な教授法の基礎知識について説明できる 学年、教材を想定したうえで、指導案を作成し模擬授業を行うことができる						
授業計画	1. 英語教育学について 2. グローバル化と英語教育 3. 共通語としての英語 4. 模擬授業（高１） 5. 模擬授業（高２） 6. 模擬授業（中１） 7. 模擬授業（中２、３） 8. 中学学習指導要領 9. 高校学習指導要領 10. 小学校英語について 11. 学習者について（認知的要因および動機づけ） 12. 教師について（教員に必要な英語力） 13. 教師について（教員に必要な英語指導力） 14. 教授法について 15. 総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	教材研究、指導案作成、教材作成、模擬授業の準備などを期日までにしてくること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	模擬授業（４０％） レポート（３０％） 試験（３０％）						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	秋田 久子						
学期	集中講義	曜日・時間	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験を意義深いものとするために						
授業の概要	中学校教諭の普通免許状を取得するために、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この授業では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護・援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションの取り方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。						
到達目標	各施設で迷惑をかけないで、目的にあった充実した実習ができること						
授業計画	第1回 制度の意義と内容 第2回 介護体験で何を学ぶか 第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」 第4回 特別支援学校における教育 第5回 特別講師による講演 「介護の実践と留意点」 第6回 高齢者の福祉と介護 第7回 介護等体験の心得および諸注意 第8回～14回 学校及び施設への訪問と視察指導 第15回 体験修了者の反省と課題発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	第8回から第14回までを各施設（特別支援学校、高齢者福祉施設）での7日間の実習を当てている						
授業方法	講義および実習						
評価基準と評価方法	授業中の課題及び事前事後のレポート(80%)によるが、授業への取り組みの姿勢(20%)を考慮する						
教科書	介護等体験ハンドブック三訂版 現代教師養成研究会編 大修館書店						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅰ						
担当教員	奥井 一 幾						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -課程論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、まず、家庭科成立の経緯などに関する教科変遷、国際的な動向を含めた現状について学ぶ。次に、学習指導要領における目標や内容等の基本的事項、家庭科の教科特性や学習課題の確認を行い、家庭科の授業づくりを行う上での基礎的知識を確認する。						
到達目標	・家庭科の教科目標を述べることができる ・学習指導要領の構成を理解し、必要に応じて引用・活用ができる ・家庭科の学習課題と生活問題との関連について述べることができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 家庭科を振り返る 第2回 家庭科成立の歴史的経緯 第3回 世界の家庭科 第4回 学習指導要領① 構成と教科目標 第5回 学習指導要領② 学習指導案と評価 第6回 家庭科カリキュラムの視点と構想① 青年期の発達課題と家庭科の学習目標 第7回 家庭科カリキュラムの視点と構想② 学習課題・領域マトリクスと学びの構造図 第8回 第1～7回内容の試験①及び講義前半のまとめ 第9回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる① 生活自立と家庭科 第10回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる② 共生と家庭科 第11回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる③ 生活主体と家庭科 第12回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる① いのち教育と家庭科 第13回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる② 食と家庭科 第14回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる③ 衣・住と家庭科 第15回 試験②と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：各授業について、テキストの該当ページを事前に一読すること。 授業後：授業で学んだことについて、要点をノートに整理し、不明な点は速やかにテキストで確認するか、質問するなどをして知識を補うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験2回（70%）、小レポート(20%)、授業参加態度・ワークシート記入状況など（10%）により総合的に評価する。						
教科書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2010. 開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ¥267(税別)						
参考書	佐藤文子編著. 中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-. 2009. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-843916-6). ¥1,800(税別) 石井克枝編著. 高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-. 2010. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-850820-6). ¥1,800(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅱ						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -教材論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、教材開発を中心に、家庭科の授業づくりの一連を確認する。その中で、学習指導案の作成において必要な知識を身につけるとともに、作成した教材の発表を通じて「家庭科指導法Ⅲ」につながる授業実践の基礎を養う。						
到達目標	・家庭科における教材、教具の意義について述べることができる ・授業での活用を意図した教材開発を行い、その概要を分かりやすくまとめ、発表することができる						
授業計画	第1回 講義ガイダンス（家庭科Ⅰの学びの振り返り） 第2回 家庭科授業参観（於：松蔭中・高） 第3回 家庭科以外の実習系科目授業参観（於：松蔭中・高） 第4回 教材とは 第5回 食分野における教材活用の例 第6回 家族分野における教材活用の例 第7回 衣・住分野における教材活用の例 第8回 消費生活分野における教材活用の例 第9回 各活用事例についての検討会（ディスカッション形式） 第10回 家庭科教材とアクティブ・ラーニング 第11回 教材作成と発表①（食、家族） 第12回 教材作成と発表②（衣・住、消費生活） 第13回 作成した教材について検討会（ディスカッション形式） 第14回 作成した教材の改善（Plan Do Seeの視点から） 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。 授業後：講義内で終えることができなかった課題については、講義外の時間を活用し各自で積極的に取り組むこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	教材についてのプレゼンテーション（60%）、授業課題取り組み状況・ワークシート記入状況（40%）で総合的に評価する						
教科書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭編-. 2008. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-234-4 C3037). ￥76(税別) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2010. 開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ￥267(税別)						
参考書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ￥2,400(税別) 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-. 2014. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). ￥2,600(税別) 佐藤文子編著. 中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-. 2009. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-843916-6). ￥1,800(税別) 石井克枝編著. 高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-. 2010. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-850820-6). ￥1,800(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法ⅠⅡ						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -授業論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業実践に必要な知識・技能を身につける。また、教育実習を見通した模擬授業の検討も行う。						
到達目標	・ 授業について批判的検討ができる ・ 題材設定から本時の授業までを視野に入れた学習指導案（細案）が作成できる ・ 自分が作成した学習指導案に基づき、模擬授業が実践できる						
授業計画	第1回 ガイダンス（家庭科Ⅰの振り返り） 第2回 学習課題・領域マトリクスと学びの構造図について 第3回 家族領域授業検討 「幼児を招こう」の授業（中学校） 第4回 住領域授業検討 「まちづくりを考えよう」の授業（高校） 第5回 領域横断的授業検討 「炊き出し応援隊」の授業（中学校） 第6回 領域横断的授業検討 「年金と生活経済」の授業（高校） 第7回 模擬授業立案① 題材の選定と指導案作成 第8回 模擬授業立案② 指導案作成と質疑応答 第9回 模擬授業立案③ 指導案作成と批判的検討 第10回 全日制ではない学校における授業の実践（ゲストスピーカーによる講演） 第11回 模擬授業立案④ 指導案作成と模擬実践 第12回 模擬授業と検討会① 食 第13回 模擬授業と検討会② 衣、住 第14回 模擬授業と検討会③ 家族、消費生活 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。 授業後：授業時間で補えない内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	学習指導案（60%）、授業課題取り組み状況・ワークシート記入状況（40%）						
教科書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む、2013、ドメス出版、（ISBN：978-4-8107-0787-8 C0036）、¥2,400（税別） 文部科学省、高等学校学習指導要領解説-家庭編-、2010、開隆堂、（ISBN：978-4-304-04166-2 C3037）、¥267（税別）						
参考書	佐藤文子編著、中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-、2009、明治図書、（ISBN：978-4-18-843916-6）、¥1,800（税別） 石井克枝編著、高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-、2010、明治図書、（ISBN：978-4-18-850820-6）、¥1,800（税別） 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編、考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-、2014、教育図書、（ISBN：978-4-87730-339-6 C3037）、¥2,600（税別）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅳ						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -評価・分析論-						
授業の概要	本科目は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業の評価・分析を中心に学ぶ。具体的には、教育実習において各自が行う授業を取り上げ、授業目標に適合した評価のあり方や授業展開等に関する学生同士の検討を通じ、自らの授業についての学習指導案の作成及び模擬授業を行う。						
到達目標	・ 授業目標に適合した評価計画を作成することができる。 ・ 授業評価・分析によって得られた情報から、改善授業案（学習指導案）を作成することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス（家庭科Ⅰ～Ⅲの学びの振り返り） 第2回 家庭科をめぐる最新の教育動向 第3回 家庭科とアクティブ・ラーニング 第4回 学習指導案作成（実習で担当する箇所について、評価基準の確認を中心に） 第5回 学習指導案と題材開発（参考指導案の選定） 第6回 学習指導案と題材開発（指導案の作成） 第7回 食領域の模擬授業 第8回 食領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第9回 衣・住領域の模擬授業 第10回 衣・住領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第11回 消費生活領域の模擬授業 第12回 消費生活領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第13回 家族領域の模擬授業 第14回 家族領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。 授業後：授業で理解が不足していた内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	模擬授業指導案（60%）、授業参加態度・ワークシート記入状況（40%）などを総合的に評価する。						
教科書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む、2013、ドメス出版、(ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036)、¥2,400(税別) 文部科学省、高等学校学習指導要領解説-家庭編-、2010、開隆堂、(ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037)、¥267(税別)						
参考書	佐藤文子編著、中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-、2009、明治図書、(ISBN: 978-4-18-843916-6)、¥1,800(税別) 石井克枝編著、高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-、2010、明治図書、(ISBN: 978-4-18-850820-6)、¥1,800(税別) 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編、考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-、2014、教育図書、(ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037)、¥2,600(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校教育心理学／教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育の心理学						
授業の概要	教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者により影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみ起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。						
到達目標	教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につけることができる。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤いじめ等の諸問題への対処法、⑥発達アンバランス（発達障害）						
授業計画	1. わかる喜び学ぶ楽しさ 2. エリクソンの生涯発達論 3. ピアジェの認知発達 4. 思春期・青年期 5. 社会性の発達 6. 社会心理学からみた「いじめ」 7. 「いじめ」を生まないために 8. 学習と記憶 9. 不適応、不登校 10. 教室での発達障害（LD、ADHD） 11. 教室での発達障害（ASD） 12. 頭の良さとは何か 13. 生徒の心理アセスメント 14. 教師の心理、リーダーシップ 15. 学級集団 筆記試験（持ち込み不可）						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の予告テーマに沿った文献調べ（インターネット等を含む）と、授業中にとったノートの復習						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材利用						
評価基準と評価方法	平常点（30％）と学期末の筆記試験（70％）により評価を行う。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点を考慮する。成績不振による再テストは行わないが、テスト当日やむを得ない事情で欠席した人は、連絡の上、再受験できる場合がある。						
教科書	サブノート形式のプリントを出来るだけ配布します。						
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校ボランティア実習						
担当教員	奥井 一幾						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての学校支援ボランティア活動						
授業の概要	スクールサポーターとして、学校教育現場で、定期的にボランティア活動を行う。内容は、児童生徒の学習支援や学校行事の運営補佐等、配属校のニーズに応じた多岐に亘る活動となる。本活動によって得られた体験については、レポートにまとめる。これら一連の活動は「実習」として捉え、受講生は、本実習を通じて教職を志す者としての自覚を形成し、主体的な学習意識を高めることが期待される。						
到達目標	・学校教育現場の実態に応じた活動に積極的に取り組むことができる ・教職を志す者としての自覚や学習への主体性を高めることができる						
授業計画	【実習前の講義】 本講義のガイダンスを行う。主な内容は、児童生徒への理解と接し方、挨拶、服装、自己紹介の仕方、教育支援の方法、報告書の書き方、安全管理及び配慮、守秘義務の厳守等についてである。 【配属校での観察実習（15回以上）】 定期的に実習を行う。活動毎に、必ず報告書を書き、その日に経験したこと、学んだこと等について詳細な記録をとる。各自の活動については、担当教員が配属校へ巡回訪問・実地指導を行う場合がある。 【実習後の講義】 各自の活動報告及び反省会を行う。活動を通して感じたこと、考えたこと、学んだことについて、報告書をもとにレポートとしてまとめる。						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前：配属校の特色、教育目標や活動内容等について事前にインターネットや書籍を通じた情報収集を行う。 事後：活動毎の報告書は実習後、記憶が鮮明なうちに速やかに記入する。						
授業方法	各配属校での実習活動、講義と講話、グループ討論						
評価基準と評価方法	報告書の記入状況（60%）、配属校担当教員の評価（30%）、レポートの内容（10%）						
教科書	実習活動状況に応じてその都度配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程総論／教育課程論						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	教育課程の編成						
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのかという問いに関わるのが教育課程（カリキュラム）である。本講義では、教育課程の編成に関する基本的な概念を検討したうえで、日本における教育課程の歴史的変遷について考察する。教育課程を問うとは、学校の教育内容の選択・組織という視点をもとに、学校教育のあり方そのものを問いなおすことでもある。						
到達目標	学校の教育課程の編成に関する基本的な理論を理解することをめざす。具体的には、以下の2つを主な内容として取り上げる。1. 教育課程の編成原理、2. 日本における教育課程の歴史的変遷						
授業計画	1. 教育課程とは何か（時間割から、幼・小・中・高の教育課程を概観する） 2. 教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義） 3. 教育課程の構造1（教科学習と総合学習、学力とは何か） 4. 教育課程の構造2（アクティブラーニングの導入と「生きる力」をはぐくむ教育課程） 5. 学習指導要領に見る教育課程の変遷1（経験主義と系統主義） 6. 学習指導要領に見る教育課程の変遷2（教育内容の現代化と荒れの時代） 7. 学習指導要領に見る教育課程の変遷3（コンテンツベースからコンピテンシーベースへの転換） 8. 試験と講義全体の振り返り：学習指導要領改訂に向けた議論の確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所について予習をする。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める。						
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	平常点30％（授業時の小レポートなど）、試験70％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	授業中に示す。						
参考書	田中耕治他『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年 田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第3版）有斐閣、2011年						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	秋田 久子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの学校に求められるもの						
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践を目指し、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢化時代、生涯学習時代、高度情報化時代の中での今後の教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。						
到達目標	学校現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる						
授業計画	第1回 教育経営の概説 第2回 学校経営と教育目標 第3回 学校の組織の構築（KJ法） 第4回 発表と検討 第5回 学校の組織と経営の実態 第6回 戦前、戦後の教育制度 第7回 義務教育制度 第8回 現代の諸課題 第9回 教育法規の基礎と概説 第10回 学校の管理運営と法規 第11回 学習指導要領と法規 第12回 教職員の服務と法規 第13回 生徒指導と法規第1回 第14回 生徒指導と法規第2回 ゲストスピーカーによる講義 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習と法規演習						
授業方法	講義とグループ討議、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（60％）として、レポート（20％）発表の成果（10％）や授業への取り組み姿勢（10％）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行う						
教科書	プリントで行う						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原論／教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念を使って考察する。						
授業の概要	1. 近代学校教育の成り立ちを理念と制度の両面で解説する。 2. 歴史と思想の視点から現代日本の学校化社会を分析する。 3. 学校現場に役立つ臨床教育学の思想と手法について学ぶ。 4. 教育評価の類型論を使い分けるとの必要性を理解する。 5. 「教育」の常識と定義の違いから教育の理念を再考する。						
到達目標	1. 教育学による成果のうち理念・歴史・思想に関する要点を理解する。 2. 現代日本で教職を務めるために上記の知識を活用できる基礎を養う。 3. 教育を主題に、問いと答え、論理とデータを備えたレポートを書く。						
授業計画	授業計画 第1回 オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回 学校教育制度(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回 学校教育制度(2)：小学校就学と高校進学との歴史 第4回 学校教育制度(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回 学校化社会(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回 学校化社会(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回 学校化社会(3)：三育主義から生涯学習への要請 第8回 臨床教育学(1)：カウンセリングマインドの思想 第9回 臨床教育学(2)：学校現場の人間関係を分析する 第10回 教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回 教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回 教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回 教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回 成果の活用(1)：グループ発表と質疑応答 第15回 成果の活用(2)：授業のまとめと教育評価						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 教科書を解説しますが各自でも読んでください。 2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。 3. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。						
授業方法	1. 前半は教員による教科書の解説を中心に進めます。 2. 途中でさまざまな視聴覚教材について議論します。 3. 後半は複数のアクティブ・ラーニングを行います。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配付し、参考文献も紹介します。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	奥井 一幾						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、学校教育現場において授業やクラス運営などの実習を行う。						
授業の概要	実習に際しては、十分に題材開発（教材研究）を行い、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすこと。						
到達目標	・実習授業の教材研究の成果を生かし、授業計画にも基づき授業が実践できるようになる。 ・生徒指導や学習指導に熱心に取り組めるようになる。						
授業計画	第1回 教育実習の事前指導（実習の心得） 第2回 教育実習の事前指導（実習上の注意・指導） 第3回 実習校訪問（挨拶） 第4回 実習校訪問（打ち合わせ、諸注意） 第5回 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色） 第6回 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認） 第7回 教育実習（観察・見学） 第8回 教育実習（題材開発、教材作成、学習指導案の作成） 第9回 教育実習（学習指導・生徒指導） 第10回 教育実習（「教育実習記録」の記入） 第11回 研究授業 第12回 研究授業の反省 第13回 事後指導（実習終了後の反省やまとめ） 第14回 事後指導（教育実習記録の記入） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	題材開発（教材研究）や授業計画作成など						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)、「教育実習記録」の記入状況(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	作井 恵子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員に必要な資質、能力の向上をはかる						
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する 実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究、指導案作成、授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの公務も体験する 毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習にいかす						
到達目標	学校現場での教科指導、生徒指導、学級指導の実際を観察・体験し、授業内外の様々な場面で生徒に対応できるようにする						
授業計画	授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである ・教育実習事前指導（実習の心得や諸注意等） ・実習校訪問（実習校への挨拶、打ち合わせ、担当クラス・教材の確認等） ・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認・指導教諭との打ち合わせ等） ・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入） ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業） ・研究授業反省会（研究授業後の自己評価・実習校教員等からの指導・助言等） ・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）						
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料などを常に収集し、実習にいかせるように努める 授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める						
授業方法	各実習校における実習						
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」50%、各自が記入する「教育実習記録」50%に基づき評価する						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、現場で充実した授業展開やクラス経営ができる。						
授業計画	本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける。 ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける) ・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)						
授業外における学習(準備学習の内容)	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価(50%)、「教育実習記録」(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	丸山 果織						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、現場で充実した授業展開やクラス経営ができる。						
授業計画	本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける。 ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける) ・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)						
授業外における学習(準備学習の内容)	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価(50%)、「教育実習記録」(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習指導（中・高）						
担当教員	秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学校現場において、「教員」として先輩教員と協働し教育活動を進めていく資質を身につける						
授業の概要	学校は教育目標と校長の経営方針とに沿って、教職員が協働して生徒の教育を進めていく場である。教育実習生とはいえ、教壇に立つものは「先生」としてのあり方を意識し、また協働して教育を進めていく姿勢が求められる。来年度の教育実習に先立ち、教科指導以外の教育活動を具体的にイメージし、実習に臨む心構えと姿勢を整える。						
到達目標	学校現場で、その目的に応じた具体的な場面でのあり方をイメージできる						
授業計画	第1回 教育実習の意義と課題 11/1 第2回 教育実習の日々 11/8 第3回 生徒指導の意義と課題 11/15 第4回 生徒指導の実践（ゲストスピーカーによる講義） 11/23（木）予定 第5回 カウンセリングマインドとコーチング（演劇的手法を用いたゲストスピーカーによるワークショップ） 11/29予定 第6回 カウンセリングマインドとコーチングに基づいたホームルーム経営 12/6 第7回 協働する姿勢（打ち合わせや会議への臨み方） 12/13 第8回 教育活動の諸課題と教師としての臨み方 12/20						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎日新聞を読み、社会的課題や教育課題についての記事を収集し考察する。						
授業方法	講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	毎回の課題の内容と提出状況（50％）、授業への参加意欲と態度・関心（30％）、最終レポート「私はなぜ教職を選んだか」の内容（20％）						
教科書	特になし。プリントを配布する。						
参考書	新聞						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	奥井 一幾・秋田 久子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	家庭科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	1. 教育実習の意義と課題 2. 教育実習生の授業（家庭科における授業のあり方） 3. 教科指導（家庭科における教科指導） 4. 生徒指導：ゲストスピーカーによる講演 5. ゲストスピーカーによる講演をうけて 教育実習をシミュレーションする 6. 教育実習の日々 7. 授業展開の実際（家庭科における授業展開の実際） 8. 教師のあり方と実践 9. 教育実習を終えて（家庭科・実習授業で得た課題） 10. 教育活動の諸課題 第2回、3回、7回、9回は奥井が担当する 第1回、4回、5回、6回、8回、10回は秋田が担当する						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に家庭科に関する知識の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	「教育実習の研究ノート」及び授業で課すレポートなどの提出物70%、授業の取り組み姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	文部科学省．中学校学習指導要領解説-技術・家庭編-．2008．教育図書．（ISBN：978-4-87730-234-4 C3037）．¥76（税別） 文部科学省．高等学校学習指導要領解説-家庭編-．2010．開隆堂．（ISBN：978-4-304-04166-2 C3037）．¥267（税別）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	芝 裕子・秋田 久子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	英語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	1. 教育実習の意義と課題 2. 教育実習生の授業（英語科における授業のあり方） 3. 教科指導（英語科における教科指導） 4. 生徒指導：ゲストスピーカーによる講演 午前 ※予定 5. ゲストスピーカーの講演を受けて 教育実習をシミュレーションする 午後 ※予定 6. 教育実習の日々 7. 業展開の実際（英語科における授業展開の実際） 8. 教師のあり方と実践 9. 教育実習を終えて（英語科・実習授業で得た課題） 10. 教育活動の諸課題 第2回、3回、7回、9回は芝が担当する 第1回、4回、5回、6回、8回、10回は秋田が担当する						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に英語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	「教育実習の研究ノート」及び授業で課すレポートなどの提出物70%、授業の取り組み姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	田中 まき・秋田 久子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	国語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で、生徒に対して適切に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	第1回 教育実習の意義と課題 第2回 教育実習生の授業（国語科における授業のあり方） 第3回 教科指導（国語科における教科指導） 第4回 生徒指導：ゲストスピーカーによる講演 第5回 ゲストスピーカーの講演を受けて 教育実習をシミュレーションする 第6回 教育実習の日々 第7回 授業展開の実際（国語科における授業展開の実際） 第8回 教師のあり方と実践 第9回 教育実習を終えて（国語科・実習授業で得た課題） 第10回 教育活動の諸課題 第1回、4回、5回、6回、8回、10回は秋田が担当し、 第2回、3回、7回、9回は田中が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に国語の学力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業で課すレポートなどの提出状況と内容70%、授業の取り組み姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語科編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 国語科編」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	丸山 果織・秋田 久子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	書道科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	1. 教育実習の意義と課題 2. 教育実習生の授業（書道科における授業のあり方） 3. 教科指導（書道科における教科指導） 4. 生徒指導：ゲストスピーカーによる講演 5. ゲストスピーカーによる講演をうけて 教育実習をシミュレーションする 6. 教育実習の日々 7. 授業展開の実際（書道科における授業展開の実際） 8. 教師のあり方と実践 9. 教育実習を終えて（書道科・研究授業で得た課題） 10. 教育活動の諸課題 第2回、3回、7回、9回は丸山が担当する 第1回、4回、5回、6回、8回、10回は秋田が担当する						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に書道の実技力と知識の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポートおよび「教育実習の研究ノート」の提出状況とその内容70%、授業態度（提出物、意欲、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 芸術編」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育相談の理論と方法						
担当教員	志田 望						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育相談における臨床心理学的理論と方法						
授業の概要	本講義では、学校現場で起こる多様な問題に対する見立ての方法と、それに伴う実践的な対応の仕方についての実習を行う。また、実際に学校現場における事例をグループ演習などを用いて検討し、児童生徒と同時に保護者や教職員の理解の仕方や対応について学ぶ。 特別支援教育については、児童生徒の特性についての見立て方と、それに基づいた教室での対応、支援計画の立て方、及び保護者に対する対応の仕方について学ぶ。						
到達目標	・ 教育相談やカウンセリングについて、いくつかの理論による見立てと働きかけ方が習得できる。 ・ 様々な事例についてグループディスカッションを行い、生徒・教職員とのやりとりについて演習を通して理解できる。 ・ 特別支援教育における保護者や教員のニーズの捉え方、配慮すべき点、支援プログラムの立て方が理解できる。						
授業計画	第1回：教育相談の役割 第2回：教育相談の概論－教育相談の枠組み 第3回：カウンセリングの基礎 第4回：教育相談におけるアセスメント（1）3分類 第5回：来談者との関係づくり 第6回：主訴と共感的理解 第7回：自律訓練法・リラクゼーション 第8回：不登校の理解 第9回：教育相談におけるアセスメント（2）心理テスト 第10回：教育相談における働きかけ 第11回：保護者・教員との協働－コンサルテーション 第12回：教育相談会議の機能性について 第13回：特別支援教育－行動療法によるアセスメント 第14回：特別支援教育－行動療法による支援計画と対応 第15回：教育相談まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自、講義内容を自分なりにまとめること。疑問や意見などがあれば、積極的に発言すること。						
授業方法	基本的には講義形式であるが、具体的な事例や問題を考える形式で進める。随時、グループワークやディスカッションを行なう。						
評価基準と評価方法	平常点：受講態度や各回提出のコメントシート(受講コメント・質問・要望等)などによる平常点(30%) 試験：期末試験による評価(70%)						
教科書	特になし						
参考書	吉川悟編（1999）システム論からみた学校臨床、金剛出版						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育という仕事						
担当教員	秋田 久子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、学校教育活動の諸側面、社会とのつながりを意識させる教育支援のあり方、学校教職員として保護者・地域との連携のしかた等についての知識を深める。						
授業の概要	この授業は、教師がおこなう幅広い仕事の実態を知り、自らの教育的資質を養うことを目的とする。あわせて、教師として必要な社会人としての幅広い知見を養う。 具体的には、学生のグループワーク（議論や演習）を通じて、現場教員等ゲストスピーカーを交えて教師と保護者・児童生徒・地域住民等の視点を意識しながら、①教育活動を分析的に見る観点を理解し、②教育活動展開の具体的な方法を学ぶ。						
到達目標	1. 学校現場のニーズに対して自らが行う教育支援について考えることができる 2. 教師としての自覚を高め、サービスの重要性を理解することができる						
授業計画	第1回 現代社会と教育の役割 第2回 新聞記事を通して見える教育の課題 第3回 新聞を教材として活用するLHRを企画する ①キャリア教育・職業教育 第4回 新聞を教材として活用するLHRを企画する ②情報化社会と人権教育 第5回 新聞を教材として活用するLHRを企画する ③グローバル化社会と私たち 第6回 新聞を教材として活用するLHRを企画する ④日本文化の発信とこれから 第7回 第3回～第6回についての発表と評価・・・アクティブラーニングの観点から 第8回 新聞記事からみる学校事故・・・防止のための連携を考える 第9回 保護者・地域との連携・・・PTAと学校評議員を考える 第10回 開かれた学校づくりと学校評価・・・コミュニティ・スクールを考える 第11回 いじめのない学校づくりを考える・・・望ましい集団作りと教員としてのアプローチ 第12回 合理的配慮について考える・・・インクルーシブ教育と教員としてのアプローチ 第13回 人権と個人情報について考える・・・具体的事例と教員としてのアプローチ 第14回 学校行事の目的と企画について・・・教師の協働体制づくりと生徒の自主的活動づくりについて考える 第15回 第8回～第14回についての発表と評価・・・「チーム学校」と社会総がかりの教育の観点から						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業テーマに関連する新聞記事を収集する。 記事内容の背景を調べる。						
授業方法	講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーション、相互評価による振り返り						
評価基準と評価方法	毎時のレポート課題、発表の成果、取り組み姿勢を加味した総合評価						
教科書	「ニュース検定 時事力 基礎編 2016」毎日新聞出版 ISBN978-4-620-90729-1						
参考書	新聞 中学校および高等学校学習指導要領解説 総則篇、特別活動篇 文部科学白書、教育課題便覧（学陽書房）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本						
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に、実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。						
到達目標	・ 授業づくりに必要な基本的な知識と技術を獲得する ・ これまでに実践されてきた授業を検討し、授業の特徴を把握できる ・ 学習指導案を作成できるようになる ・ 受講生同士で他者の指導案を検討し、改善に向けて議論ができる						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるかについて議論する。 第2回 授業の構成要素（１）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と、実践に生かす際の留意点について学ぶ。 第3回 授業の構成要素（２）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。 第4回 授業の構成要素（３）：新学習指導要領とアクティブラーニングを取り入れた授業について学ぶ。 第5回 教育実践事例の検討（１）：子どもをひきつける教材のあり方について考える。 第6回 教育実践事例の検討（２）：討論を取り入れた授業のあり方について考える。 第7回 教育実践事例の検討（３）：ワークショップ型の授業のあり方について考える。 第8回 教育実践事例の検討（４）：探究型の授業のあり方について考える。 第9回 学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくりについて考える。 第10回 情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。 第11回 学習指導案づくり（１）：学習指導案のつくり方について学び、実際に作成してみる。 第12回 学習指導案づくり（２）：学習指導案づくりを行う（前回の続き） 第13回 模擬授業：作成した指導案に沿って授業を行い、指導案を改善する。 第14回 子どもとの向き合い方：教師としてどのようなことに気をつけながら子どもと向き合い、教育実践を進めていくのかについて考える。 第15回 まとめと教育改革動向の説明：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングについて学ぶ。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前時に行う予告に従い、次時の授業の準備を行うこと。 授業後学習：授業内容をふりかえり、要点の整理を行うこと。また、復習の過程で質問事項が出た場合には、次の授業で質問することによって、授業内容の確実な定着をめざすこと。						
授業方法	講義（ただし、グループ活動などの演習的要素を含む）						
評価基準と評価方法	・ 平常点50％（講義でのワークシートや小レポート、模擬授業の発表）、最終レポート50％から総合的に判断する。 ・ 6回以上欠席した場合には単位認定は行わない。 ・ 「意欲」については、講義への参加の様子や授業毎の課題などの完成度を中心に評価する。 ・ 「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。 ・ 「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年 ②田中耕治編著『時代を拓いた教師たち－戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年 ③田中耕治『新しい時代の教育方法』有斐閣、2013年						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職原論／教師論						
担当教員	武井 哲郎						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代的な教育課題を解決するために何が必要となるのか、これからの教師の在り様を追求する。						
授業の概要	本講義は、教育職員免許法に定められている「教職の意義等に関する科目」に対応する開設科目である。教職の意義、教員の役割、教員の職務内容（研修、服務、身分保障を含む）、進路選択に資する各種機会の提供などがその内容となっているので、この規定に沿った講義計画となっている。						
到達目標	・「教職」に対する理解を深め、教員を取り巻く制度的環境について整理・分析を行うことができる。 ・多様な背景や特性を有した子どもと向き合ううえで教員に求められる役割とは何か、整理・分析を行うことができる。 ・現代的な教育課題の内容をふまえたうえで、これからの教員が身に付けておくべき専門性とは何か、整理・分析を行うことができる。						
授業計画	第1回：イントロダクションー「教職」とは何か？ 第2回：教員に求められる職務の現状と課題 第3回：教員の養成・採用をめぐる現状と課題 第4回：教員の研修と力量形成 第5回：教員の服務と身分保障 第6回：「教育を受ける権利」の保障 第7回：「学校に行かない子ども」への対応 第8回：「学校に行かない子ども」の居場所 第9回：「特別な教育的ニーズ」とは何か？ 第10回：特別支援教育の動向と課題 第11回：「体罰」の実態・定義・背景 第12回：「体罰」なき指導の困難性と可能性 第13回：「子どもの貧困」とは何か？ 第14回：「チーム学校」時代に生きる教員の役割 第15回：講義全体の振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義あるいは松蔭manabaを通じて課題を出す。指定された方法で提出すること。						
授業方法	講義。グループ・ワークを適宜取り入れる。						
評価基準と評価方法	評価方法：レポート（50%）、筆記による試験（50%） 評価基準：レポートおよび試験により、理解度・到達度を検証する。授業で扱った事項に基づき、知識の習得がなされているか、自己の考えが展開できているかを確認する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	坂田仰編著（2015）『生徒指導とスクール・コンプライアンスー法律・判例を理解し実践に活かす』学事出版。 仲田康一（2015）『コミュニティ・スクールのポリティクスー学校運営協議会における保護者の位置』勁草書房。 勝野正章・庄井良信（2015）『問いからはじめる教育学』有斐閣。 大桃敏行・押田貴久編著（2014）『教育現場に革新をもたらす自治体発カリキュラム改革』学事出版。 坂田仰・黒川雅子・武井哲郎編著『教育課程論』教育開発研究所（2015年3月刊行予定）。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	奥井 一幾・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題						
到達目標	学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 履修カルテの記録と気づき 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題（家庭科について） 第9回 家庭科の授業づくりとアクティブ・ラーニング（個人・ペア） 第10回 家庭科の授業づくりとアクティブ・ラーニング（グループ） 第11回 家庭科教育実践についてのフィールドワーク 第12回 家庭科の学び総括 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレイとロールレタリング 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認 第1～7回及び第13～15回は秋田、第8～12回は奥井が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	学習指導案の改善、新聞を用いた教材づくりなど						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業で課すレポートなどの提出状況と内容70%、授業の取り組み姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭編-. 2008. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-234-4 C3037). ￥76(税別) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2010. 開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ￥267(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	芝 裕子・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題						
到達目標	学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 履修カルテの記録と気づき 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点（教科指導以外）の自覚と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題（教科指導） 第9回 英語科の授業づくりとアクティブ・ラーニング 第10回 英語科模擬授業：課題を踏まえた授業改善 第11回 英語科教育実践についてのフィールドワーク 第12回 英語教育の新しい流れと評価 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレイとロールレタリング 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認 第1～7回及び13～15回は秋田、第8～12は芝が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	学習指導案の改善、新聞を用いた教材づくりなど						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業で課すレポートなどの提出状況と内容70%、授業の取り組み姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	田中 まき・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題						
到達目標	学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 履修カルテの記録と気づき 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題（教科指導） 第9回 国語科の授業づくりとアクティブ・ラーニング 第10回 模擬授業：課題を踏まえた授業改善 第11回 国語科教育実践についてのフィールドワーク 第12回 国語科教育の新しい流れと評価 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレイとロールレタリング 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認 第1～7回及び第13～15回は秋田、第8～12回は田中が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	学習指導案の改善、新聞を用いた教材づくりなど						
授業方法	講義と演習・発表						
評価基準と評価方法	授業で課すレポートなどの提出状況と内容70%、授業の取り組み姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語科編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 国語科編」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	丸山 果織・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題						
到達目標	学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 履修カルテの記録と気づき 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題(教科指導)と反省 第9回 書道科の授業づくりと、実技指導の具体的方法 第10回 書道科模擬授業：課題を踏まえた授業改善 第11回 書道科教職実践についてのフィールドワーク 第12回 書道科の評価方法と、「書道」とおした教育 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレイとロールレタリング 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認 第1～7回及び第13～15回は秋田、第8～12回は丸山が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	学習指導案の改善、新聞を用いた教材づくりなど						
授業方法	講義と演習・発表						
評価基準と評価方法	授業で課すレポートなどの提出状況と内容70%、授業の取り組みの姿勢（意欲、関心、態度）30%で評価する。						
教科書	必要に応じて資料を配布する。						
参考書	「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 芸術編」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法Ⅰ						
担当教員	田中 まき						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語力の向上のために、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標等の理論を理解し、適切な授業展開ができる。						
授業計画	【前期】 第1回 国語科教育の意義について 第2回 国語科教育の目標について 第3回 国語科に関する教育法規について 第4回 学習指導要領について 第5回 コミュニケーション・プレゼンテーション力の養成 1 第6回 コミュニケーション・プレゼンテーション力の養成 2 第7回 教材研究と授業の展開の立案について 第8回 板書計画について 第9回 国語科教育における伝統文化の学びについて 第10回 学習指導案作成の演習 1 第11回 学習指導案作成の演習 2 第12回 授業展開の研究 1 第13回 授業展開の研究 2 第14回 電子黒板使用の研究 第15回 前期のまとめ 【後期】 第1回 学校現場での授業観察（事前授業） 第2回 学校現場での授業観察 1（於：松蔭中高） 第3回 学校現場での授業観察 2（於：松蔭中高） 第4回 学校現場での授業観察（事後授業） 第5回 国語科におけるアクティブ・ラーニングについて 第6回 小説教材の学習指導案作成の演習 第7回 小説教材の模擬授業 1 第8回 小説教材の模擬授業 2 第9回 評論教材の学習指導案作成の演習 第10回 評論教材の模擬授業 1 第11回 評論教材の模擬授業 2 第12回 古文教材の学習指導案作成の演習 第13回 古文教材の模擬授業 1 第14回 古文教材の模擬授業 2 第15回 国語科教育についてのまとめ このうち【後期】第2回・第3回の松蔭中高での授業観察は9月中旬の実施となる。						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	『中学校・高等学校 国語科教育法研究』東洋館出版社 田近洵一 鳴島甫 編著 ISBN978-4-491-02851-4 C3037						

参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法Ⅱ						
担当教員	松山 雅子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学習指導の根幹である教材分析力を養い、実践理論と方法から国語科授業構想の基礎を理解する。						
授業の概要	具体的な教材をもとに、授業構造の基礎理論と方法を実勢的に学ぶことを目的とする。模擬授業の演習も加えながら、国語科教師の専門的力量とは何かを考えていく。						
到達目標	国語科の教育目的、教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導の構想・立案ができること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション(目的と概要) 第2回 国語科教育を捉える基本的観点 1(言語能力とはなにか) 第3回 国語科教育を捉える基本的観点 2(初等から中等への体系的学習指導) 第4回 教材分析の基本理論と方法 第5回 教材分析の実際1(小説教材) 第6回 教材分析の実際2(小学校物語教材からの発展) 第7回 読むことの学習指導—文学的文章 第8回 文学的文章の学習指導構想—書くこと／話す・聞くことと関連付けて 第9回 文学的文章を軸とした学風指導の実際—模擬授業と検討会 第10回 教材分析の実際3(評論教材) 第11回 教材分析の実際4(小学校説明教材からの発展) 第12回 読むことの学習指導—説明的文章 第13回 説明的文章の学習指導構想—書くこと／話す・聞くことと関連付けて 第14回 説明的文章を軸とした学修指導の実際—模擬授業と検討会 第15回 学習者の言語環境の多様化を踏まえた国語科教育の可能性と課題—まとめにかえて						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業中に配布する資料を事前に読む。模擬授業の指導案を考える。						
授業方法	講義を中心とするが、適宜ワークショップ、教材分析発表、模擬授業の場を設け、実践的に思考する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	実践的演習、最終課題および授業に対する能動的な態度をもって総合的に判断する。						
教科書	授業中に随時資料を配布する。 * 質問がある場合は、授業の前後で対応する。						
参考書	『新たな時代を拓く 中学校高等学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会 編、東洋館出版社						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法Ⅲ						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科教育の理論と実践の習得						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語科教育を担うのに十分な国語力を養成すべく、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標など理論を理解し、適切な授業展開ができる。						
授業計画	第1回：国語科教育についてのこれまでの学習の確認と本授業の概説 第2回：国語科の授業分析 第3回：国語科授業における電子黒板使用の研究 第4回：電子黒板を使う授業の演習①(現代文) 第5回：電子黒板を使う授業の演習②(古典) 第6回：学習指導案の作成①(現代文) 第7回：学習指導案の作成②(古典) 第8回：模擬授業①(現代文) 第9回：模擬授業②(古典) 第10回：国語科におけるアクティブ・ラーニングの演習①(現代文) 第11回：国語科におけるアクティブ・ラーニングの演習②(古典) 第12回：国語科の評価①(現代文) 第13回：国語科の評価②(古典) 第14回：国語科学習者の現状と課題 第15回：国語科教育についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40%						
教科書	プリントなど資料を配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法						
担当教員	丸山 果織・真鍋 昌生						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	高等学校芸術科書道の教員として必要な理論と実践						
授業の概要	高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法を習得する。高等学校における芸術の授業をどのように考え、如何に実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考える。 国語科書写との関連をはかる。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察する。模擬授業をとおして実践力を高めることを目指す。 書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指す。						
到達目標	文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法、教科書の使い方などの工夫ができる。また、実技能力の向上を目指す。						
授業計画	〈前期〉 担当：丸山 1) ガイダンス（書道教員になるために－教育理念をもつ 2) 書写と書道について 3) 書道史・書論について 4) 書道教育の歴史 5) 書道における芸術性と実用性 6) 学習指導要領の検討－書道Ⅰ 7) 学習指導要領の検討－書道Ⅱ 8) 学習指導要領の検討－書道Ⅱ 9) 臨書について（１）臨書の方法と意義 10) 臨書について（２）古典臨書 11) 表現について（１）－臨書と創作指導のあり方 12) 表現について（２）－漢字仮名交じりの書と古典 13) 実技授業とは－高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（１）名前を書く（楷・行・草） 14) 実技授業とは－高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（２）半紙に書く（篆書・隷書） 15) 実技授業とは－高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（３）半切に書く 〈後期〉 担当：丸山・真鍋 1) 学校現場での授業観察（事前授業） 2) 学校現場での授業観察（１）（於：松蔭高校） 3) 学校現場での授業観察（２）（於：松蔭高校） 4) 学校現場での授業観察（事後授業）、篆刻について① 5) 書道科の授業展開とアクティブ・ラーニング、篆刻について② 6) 学習指導の要素・方法・形態・技術（１）－示範・批評の学習指導 7) 学習指導の要素・方法・形態・技術（２）－知識・理解の学習指導 8) 学習指導計画の立案（１）－年間・単元 9) 学習指導計画の立案（２）－毎時 10) 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討 11) 各自の学習指導案の検討（１） 12) 各自の学習指導案の検討（２） 13) 学生による模擬授業（１） 14) 学生による模擬授業（２） 15) 模擬授業の検討－授業のまとめ 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技能力の向上は、授業外での努力を望む。						
授業方法	講義および実技						
評価基準と評価方法	平常点２０％ 課題・提出物５０％ 作品提出３０％						

教科書	高等学校学習指導要領解説芸術編（文科省） 「書Ⅰ」（光村図書）
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法Ⅱ						
担当教員	丸山 果織・真鍋 昌生						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	書道科教育の理論と実践の習得						
授業の概要	書道科教育の意義、目標、方法等について講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、書道の実技力を高めるため演習を積む。						
到達目標	書道科教育の意義、目標、方法等の理論と実技力向上における指導法の習得						
授業計画	1) 書道科教育の概説 【丸山】 2) 書道科の授業分析 【丸山】 3) 実際の書道科の授業についての考察 【真鍋】 4) 授業進行過程における問題点の確認とその対策①ー目標設定について 【丸山】 5) 授業進行過程における問題点の確認とその対策②ー実習方法について 【丸山】 6) 授業進行過程における問題点の確認とその対策③ー提出の方法について 【丸山】 7) 実技指導上の問題点の確認とその克服のための対策（個々の実技上の課題設定） 【丸山】 8) 学習指導案の作成① 【真鍋】 9) 学習指導案の作成② 【真鍋】 10) 書道科授業の指導案検討① 【丸山】 11) 書道科授業の指導案検討② 【丸山】 12) 模擬授業① 【真鍋】 13) 模擬授業② 【丸山】 14) 書道科の評価 【丸山】 15) 書道科教育のまとめ 【丸山】						
授業外における学習（準備学習の内容）	書道科教員を目指す者として、書道の知識と実技力の向上の修練を怠らないこと。						
授業方法	講義と実技演習						
評価基準と評価方法	講義内容（学習指導案作成、模擬授業、レポート）40% 実技能力 60%						
教科書	必要に応じて資料を配布する。						
参考書	必要に応じて資料を配布する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導の理論と方法／生徒指導論						
担当教員	長谷川 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒の人格形成と自己実現力の育成						
授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教科外指導（生徒指導や進路指導）のもつ比重は大きい。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を実証的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められるのである。 本講では、生徒指導の意義や目的を理解し、現代の学校現場における、いじめ問題、不登校問題、体罰問題等をテーマに議論を展開し、こうした事象に対する自分なりの考えや意見を持てる力を身につけるとともに、問題解決方法を探っていくこととする。 また、進路指導の内容には、文部科学省で取り上げられることの多い小学校段階からのキャリア教育の必要性やフリーターやニートに関する実態を取り上げ、キャリア・ガイダンスのあり方について言及したい。						
到達目標	生徒指導論のなかで目指すべき目標は、以下の4点である。 1. 教科指導と教科外指導との関連を理解し、生徒指導が学校の教育活動全般にわたって行われなければならない営みであることを理解する。 2. いじめや不登校などの学校病理原を例として取り上げながら、それへの対処方法を理解する。 3. 生徒たちのより適切な進路指導として、小学校段階からのキャリア教育という視点を理解し、その際の留意点等を理解する。 4. 生徒たちの発達に合わせて教育指導は行われるべきであることを理解し、学校現場におけるカウンセリングマインドの有効性について理解する。						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション 第2回 生徒指導の意義と概念 第3回 生徒指導の課題 第4回 教育課程と生徒指導 第5回 生徒理解と生徒指導 第6回 生徒の問題行動 第7回 不登校問題の現状理解 第8回 不登校問題の対応 第9回 体罰問題 第10回 いじめの歴史的変遷 第11回 いじめの今日的特質 第12回 進路指導とは何か 第13回 進路指導と職業指導 第14回 進路選択と若年未就業の問題 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	教育時事トピックスに日常から関心を持ち、理解を深めておくこと。						
授業方法	講義、グループ討議。						
評価基準と評価方法	定期試験 70% レポート 30%						
教科書	文部科学省生徒指導提要						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動指導法						
担当教員	長谷川 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫						
授業の概要	学校教育における特別活動の位置づけや役割について、学習指導要領や具体的な取り組み事例等を通して理解することを目指す。 特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。また、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動であるとされている。 授業では、このような特別活動の教育的な意義をふまえながら、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、部活動及び学校行事の具体的な課題解決のための指導法について、学生参加型の授業を転換しながら検討する。						
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることが出来ること（学習指導要領の内容を理解し、具体的な計画が立てられること）。						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション 第2回 特別活動の目標と意義 第3回 特別活動の内容相互の関連 第4回 学級（HR）活動のあり方と実践 第5回 グループ別研究（学級（HR）について） 第6回 個人研究（HRの年間計画） 第7回 発表と検討 第8回 生徒会活動のあり方と実践 第9回 グループ別研究（生徒会活動について） 第10回 学校行事のあり方と実践 第11回 グループ別研究（学校行事について） 第12回 発表と検討 第13回 部活動のあり方と実践 第14回 発表と検討 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習。						
授業方法	講義、グループ討議・発表。						
評価基準と評価方法	定期試験50% 研究発表30% 授業への取り組み、姿勢20%						
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳指導法						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「特別の教科 道徳」の指導案を倫理学で組み立てよう。						
授業の概要	1. 学習指導要領が示す道徳教育の位置づけについて説明する。 2. 道徳科の指導案を紹介しつつ、倫理的な背景を解説する。 3. 指導案作成・模擬授業実施・相互評価を学生を中心に行う。						
到達目標	1. 学校での道徳教育の役割と指導法について学生が理解できる。 2. 道徳教育のあり方について倫理学の視点で学生が評価できる。 3. 学習指導要領を踏まえ道徳科の模擬授業を学生が実践できる。						
授業計画	1. オリエンテーション：私語の倫理学をめぐって 2. 体験した道徳教育：グループで発表する 3. 指導要領にみる道徳科(1)：学校教育の役割 4. 指導要領にみる道徳科(2)：他教科との関係 5. 道徳科の教材研究(1)：自己との関わり 6. 道徳科の教材研究(2)：他者との関わり 7. 道徳科の教材研究(3)：集団・社会との関わり 8. 道徳科の教材研究(4)：生命・自然との関わり 9. 倫理学から道徳科をみる：身体的自由は本当か？ 10. 模擬授業の実践(1)：自己との関わり 11. 模擬授業の実践(2)：他者との関わり 12. 模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり 13. 模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり 14. 模擬授業の実践(5)：その他との関わり 15. まとめ：相互評価・レポート返却・成績説明など						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 教科書と学習指導要領は各自でも何度か読んでください。 2. 模擬授業は責任をもって準備した上で実施してください。 3. 模擬授業が済んだらレポートを早めに提出してください。						
授業方法	1. 序盤では教員による講義を基本にディスカッションも取り入れます。 2. 中盤では学生が参加して教材研究をしつつ学習指導案を準備します。 3. 終盤では学生グループによる模擬授業と質疑応答を中心に進めます。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言などによる） 2. 模擬授業40点（教員だけでなく学生の相互評価をも含む） 3. 学期末レポート30点（模擬授業と質疑応答を題材とする）						
教科書	『道徳教育はホントに道徳的か？』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。						
参考書	『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』						